

『イギリスにおける労働者階級の状態』に学ぶ

第11回 関東ブロック

プロレタリアートに対するブルジョアジーの態度

ブルジョアジーの性質

利己心と金銭欲とその隠蔽方法

司会…今回の学習は、労働運動や労働者に対する国家の政策の分析と、労働者階級の闘いの今後の展望について予測している箇所である「プロレタリアートに対するブルジョアジーの態度」の章です。まず、エンゲルスはブルジョアジーの性質をどのように捉えているのかについて、中山さんの説明を聞きたいと思います。

中山…産業革命以降のイギリスの社会には、古い支配者階級である貴族や地主と資本家階級、被支配者階級としての労働者階級の3つが存在することと

なりました。エンゲルスは、労働者階級を、所有の特権を持たないプロレタリアート、資本家階級と旧支配者層を合わせた階級を、所有の特権を有するブルジョアジーとして論を進めていきます。

エンゲルスはイギリスのブルジョアジーを、金銭欲にまみれた醜い者たちとして描き出しています。時に彼らは、良き家庭人であるといった一面を見せます。しかし、結局、彼らの行動を決めるものは金銭の損得でしかありません。工場主にとって労働者は「労働」もしくは「人手」といった、手段や道具と同じで、たとえ餓死しようと、そ

れは顧みられることではないということです。

司会…ブルジョアジーとは、プロレタリアの生活や人生を踏みつけにしても、己の金銭欲を満たそうとする利己的な階級というのがエンゲルスのブルジョアジーに対する見解であるとのことですね。

小林…そうすると、ブルジョアジーに、プロレタリアは「ふざけんなよ」ってことになると思うのだけれど、その辺はどうなっていたのかな。

中山…反発を招くことのないよう、あるいは、彼らを味方につけるためにもブルジョアは彼らの利己的な欲望を隠



ブルジョアと貧民

そうとするのだけれど、隠しきれない
ということなんです。

例えば、救貧税と慈善施設への多額の寄付をしているのだから、自分は不快な思いから保護されるべきだ。なのに、街中に乞食がいて不快な思いをさせられているのは理不尽だと、新聞紙上で訴える一淑女の例を、エンゲルス

は紹介しています。ブルジョアの施す慈善が、必ずしも弱者への慈愛からきているわけではないことを報告しています。

また、穀物法が廃止されれば、雇用や賃金に恩恵をもたらすという主張も、自分たちが一時的な利益を得るためのプロレタリアートへの博愛主義を装った嘘や謀略だという趣旨のことも言っています。

党派や国家権力によるプロレタリアに対する仕打ち

司会…ここまでの報告は、個々のブルジョアによるプロレタリアに対する仕打ちの例です。ブルジョアたちの建前と本音の違いがよくわかりますね。

遠藤…前回までは、資本主義体制においてプロレタリアートの生活や労働がいかにひどい実態であるのか見てきたわけだ。今回は、支配階級であるブルジョアと支配される側のプロレタ

リアートがどんな関係にあるのかを見ているのだけれど、彼らを取り巻く国家との関係はどのようなものになるのだろう。

中山…ブルジョアジーにとつて障壁がない自由競争こそが理想であり、金儲けに制限をかけようとする国家は、本来邪魔なものなんだ。でも、その一方で、プロレタリアートを抑制するためには国家権力が必要だという理解もしています。そういうわけで、ブルジョアジーは国家をプロレタリアートの方に振り向かせ、自分たちの方には向かわせない努力をするのだと、エンゲルスは述べていますね。

遠藤…ブルジョアジーは、国家権力などのさらに大きな力を使ってもプロレタリアートを抑え込もうと考えると思うのだけれど、実際にはどうなのかな。中山…この国の法律についてエンゲルスは、「立法全体が有産者を無産者から守ることを目的にしている」と、そ

の目的にいかかわしい印象を持つていることを、まず述べています。

例えば、治安判事によつて、召喚された場合、富者と貧乏人では扱いが正反対になると報告しています。富者に対しては面倒をかけたことに恐縮し、出来る限り有利な扱いがなされるのに対し、貧乏人は、はなから犯罪者扱いされ不当な扱いをされるといふのです。プロレタリアに対し、法に係る人間が不当な扱いをする同様の例は、その他にも多くあることを、事例とともに述べています。

広畑…テレビドラマみたいな話だね。ただ、先ほどの乞食の不快感を述べる似非善人の淑女の投稿が公のメディアに載ってしまうように、この時代の空気感としては、こういうことは当たり前なことなのかもしれないね。だから流されないためには、日々問題意識をもつて、生活していくことが大切ということなんだね。

中山…このような、法律を扱うことを生業なりわいとしている者からの態度から、プロレタリアートに対する敵意が、この国の法律の大きな基礎なのだと、エンゲルスは見抜いたんだね。

さらに、有産階級がプロレタリアートをより屈服させるための法律は、進行形で議会に提案され続け、あるものは通過している事も報告しています。それは、プロレタリアが自由に使うことが出来た共有地を取り上げ開墾するための法律の成立であり、労働者の旅行する自由を制限する法案の提出であり、労働者を雇主が極端に抑制する法案の提出であつたりしたんだ。

マルサスの「人口論」と救貧法

司会…ありがとうございました。次にブルジョアジーが党派や国家権力といった強大な力でプロレタリアートに敵対し「最も公然たる宣戦布告」をしているのは、マルサスの人口論を根拠に

した「新救貧法」であるとエンゲルスは指摘しています。マルサスの人口論とこの法律の成立過程ついて、報告を聞いていきましょう。

中山…マルサスの人口論が主に主張しているのは、「地上の人口は常に過剰であり、したがつてまた、窮乏や、困窮や、貧困や、不道徳が支配せざるを得ないこと、過剰でしたがつてまたさまざまな階級に分かれて生存するのが人類の運命」であり、「裕福で教養があり、道徳的である階級」ばかりではない、という主旨です。この論に基づき、①慈善や救貧基金が、賃金抑制に悪影響をもたらす過剰人口を養い、さらには、過剰人口を増やすように作用するのであるから、意味をなさないこと。さらに、②消費できる労働生産物は一定量しかなく、救貧委員会のはたらきによつて、貧民が就職することにより、別の人が失業することとなるばかりでなく、救貧委員会直轄の産業は、その



救貧院での石割り作業

生産費の安さゆえ民間の産業が損失を被ることとなり、やはり慈善や救貧基金がむだである、とマルサスは主張しているのです。つまりは、過剰人口を養うことより何らかの方法で抑制することが重要であるというのが、この主張の骨子です。

広畑…マルサスの主張つて、労働生産物が一定量であることを前提としている点で以前学習した『貨幣・価格および利潤』のウエストンの主張と共通しているよね。そして、現在でもこれを前提にした常套句で、経営者側は賃上げ拒否するわけだから、根の深い問題

なんだね。それを克服のため、科学的社会主義の理論を身に着けることの大切さを、改めて感じるところだよね。

中山…その後1832年の選挙法改正によつて力を得たブルジョアジーは、さつそく33年に、救貧法改正に着手しました。マルサス主義者の委員たちは、1601年以來の旧救貧法を社会に

に対し悪い影響しかないと断罪し、34年に新救貧法が成立したのでした。エンゲルスは、旧救貧法による社会への作用に関する叙述は「全体として全く正しい」と肯定しています。しかしながら、その原因はそうならざるを得ない社会構造にあるのだから、マル

サス主義者の委員たちの主張は誤りであると指摘しています。

司会…では、救貧院の実態とは具体的にどのようなものだったのでしょうか、説明をお願いします。

中山…新救貧法の下では、現金または生活手段による救済はすべて廃止され、救貧院に収容されない限り救済を受けることが出来なくなりました。救貧院の実態は、「救貧法バステイユ（牢獄）」といえるようなもので、その居住者たちには、本物の監獄に入るほうがましと思えるほどのひどさでした。例えば、彼らの生産する低コストの商品は個人事業にとって不利になることから、低コストの商品を作らせないために、彼らから生産的な仕事を奪う例。あるいは、病人がベッドに縛り付けられ、ついには死んでしまった例。一つのベッドに複数人の子供が寝かされていた例。鉄道敷設のために被救恤民の墓地が蹂躪された例。

これはつまり、無産者は有産者から搾取されるためだけの存在であり、利用価値なしと判断されれば、餓死するしかない存在であると、新救貧法は宣言して実践していることと同じことなのだと報告されています。

しかし、一方で、新救貧法の反作用は、労働者運動を促進し、特にチャーチズムの普及という形であらわれたことも、エンゲルスは指摘しています。

岩井…このところは、読んでいて気分が悪くなるような例ばかりだね。ところで、これらの例の中に、知的障がい者の看護師の話が出てくるのだけれど、これは、社会主義の文献に初めて障がい者が登場する歴史的場面なんだそうだよ。そういう意味でも、これは歴史的文献と言えるものなんだね。

ブルジョアジーの命運と

革命へのプロセス

司会…最後にエンゲルスは、イギリス

のブルジョアジーの命運を予想し本書の結語としています。報告をお願いします。

中山…そのころイギリスのブルジョアジーは、アメリカの工業の後進性を信じ、イギリスの競争相手になりえないと一笑に付していました。

しかし、エンゲルスは、アメリカの工業の大いなる発展の可能性を見抜いていました。そして、今後20年もすれば、イギリスの工業の独占的地位は打ち破られ、過剰になったイギリスのプロレタリアートは革命に立ち上がるしかなくなるであろうと、エンゲルスは予測しています。

また、この予測の一方で、仮にイギリスの工業が先進性を保持することが出来た場合、イギリスの工業のさらなる拡張によって、「商業恐慌はいよいよ暴力的になり、ますます激しさを増す」ことで資本の集中が進み、百万長者の数は減り、プロレタリアートが

国民全体の著しい多数派になることでプロレタリアートが現存の社会権力打倒の氣運が高まると考えました。

岩井…その後の、アメリカの工業の躍進を知る私たちにすれば、この時点のエンゲルスの慧眼^{けいがん}ぶりはすごいよね。

中山…しかし、さらに、エンゲルスは、「それでもどちらの場合も起こらないであろう」として、3つめの具体的な予測を提示しています。

つまり、恐慌と外国との競争、そこから生じる中産階級の一層の破滅が相乗して「この事態により早く決着をつけるであろう」と、エンゲルスは考えました。具体的には「1846年から47年に起こる恐慌が、穀物法の廃止と人民憲章をもたらずであろう」と予測し、人民憲章の実現が期待を裏切らない革命運動を引き起こすであろうと述べています。そこから、さらにその次の恐慌（1852年か53年）までには、マグマのようにたまった人民の

◆みんなの学習講座

憤怒が噴き出すような革命が起こるであらうと、予測していきます。

そうした事態の進行の中で、プロレタリアート側に寝返ってくるブルジョアジーがいるかもしれないが、それはせいぜい中道に留まる程度のものであり、革命の推進に役に立たないとエンゲルスは切り捨てます。

エンゲルスは、「社会の中であらゆるものが、きわめてはつきりと、しかも鋭く発展しているから」「イングラントほど予言の容易なところはない」と明言し、自らの予測に対し自信を示しています。

岩井…その後、1847年に恐慌は実際に起つて、穀物法の廃止は46年に実現し、「人民憲章」の実現がかなわなくても、48年には、一方で「共産党宣言」は発せられて、他方、ヨーロッパ全土で革命状態に陥ったのですから、エンゲルスの予言は、その後の事態の半分程度は言い当てているという

感じですよ。

暴力革命か平和的解決か

司会…その革命は、暴力的なものとなるのか、あるいは平和的なものとなるのかについて論じていきます。中山さんお願いします。

中山…そもそも、共産主義革命についてのエンゲルスの考えは、「共産主義はまさに人類の問題であつて、労働者だけの問題ではない」というものです。つまり、革命は歴史的発展の必然と考えました。ですから、抑圧者に対するプロレタリアートの憤慨が初期の労働運動にとって重要であつても、ここに留まることなく共産主義はこれを超越して進むものなのです。ですから、労働者の間に社会主義的・共産主義的理論が進めば、憤怒にまかせた行動は抑制され、革命は穏かになるかもしれないと述べています。つまり、プロレタリアートの成熟度合によつて革命の性

格が決まると考えているのです。

しかしながら、エンゲルスの最終的結論は、「もはや平和的解決には遅すぎる」というものです。

遠藤…革命形態に対するエンゲルスの予測は大きく方向を変えています。なんでなんだろうと思います。

広畑…このことは、労働者の人として扱われることなく虐げられていた実態を、実体験として知ってしまったエンゲルスの、暴力を用いることを厭わな

いとさへ考えるほどの怒りがそう言わせているのではと思えます。

司会…なるほど、確かにこういう解釈も成り立つのかもしれませんが、皆さんもどうもありがとうございました。

今回でテキストを用いた学習は最後です。次回は講座最終回となります。この一年間の学習の感想を出し合いながら、本講座から学んだものは何か、確認していきます。